



自然教室の取り組み

4月25日(月)と26日(火)の2日間、1年生が自然教室に行ってきました。昨年度よりも、随分と早い時期の実施となりましたので、準備の時間が十分に取れませんでした。それでも、生徒たちはひたむきに、そしてよく考えて行動し、仲間と協力しながら様々な活動に取り組んでいました。

雨を気にしながらの2日間となりましたが、幸いほとんど雨に降られることもなく、

予定していたプログラムを実施することができました。生徒たちはしっかりと取り組みました。

自然教室に行くまでは、いくつかの小学校から入学してきているため、互いに遠慮し合う様子が見られましたが、帰る頃にはすっかり打ち解けて、学級や学年の「つながり」が深まっていました。様々な活動やりとりを通して、仲間の良さや個性をたくさん発見できたようです。ここで得た「つながり」や「行動力」は、きっと今後の学校生活において生かされることでしょう。

自然教室はその言葉の通り、日常生活では体験できない自然の中での体験を中心とした活動です。それだけではなく、自宅を離れて集団で宿泊することにも教育的な意義があります。多くの



仲間と食事や宿泊を共にする集団行動ですので、時間やきまりを守ることもとても大切になります。また、全員が楽しく過ごすためには、「他者を慮ること(思いやること)」がとても大切になります。これらのことを、前日の事前指導の際に話しましたが、出発式の際に覚えているかと質問したところ、ちゃんと覚えていてくれた生徒が何人かいて感心しました。

「自然教室」だけでなく、毎日の学校生活や社会生活においても、「他者を慮ること」はとても大切であり、なくてはならないことです。考えや思い、状況が様々な違う人たちが、互いに気持ちよく一緒に生活していくためには、常に相手や他者のことを慮ることが必須となります。その上で協働して取り組むことで、有用に機能する組織や社会となります。ですから、こうした宿泊行事において他者のことを意識し、慮ること(思いやること)を学ぶことはとても大切です。



初日は曇り空でしたので、午前は予定通り「東海自然歩道ハイキング」を実施しました。湯の山温泉駅前バスを降り、「東海自然歩道」を約7キロ歩いて「少年自然の家」を目指しました。自然の中を歩くのは心地よかったです。普段はあまり歩かない距離ですので、途中からは疲れた様子も見られました。それでも、歩ききって到着した際には、笑顔があふれていました。

昼食は、自然の中で班の仲間と配られたお弁当を食べました。いつもよりもおいしく感じたようです。

午後は、野外炊事に取り組みました。しおりを見ながら着実に作業を進める生徒、仲間に声をかけてグループをリードする生徒、先生の手伝いを進んでする生徒など、主体的に行動できる生徒が多くいました。調理のメニューは、空き缶で炊いた米と、レトルトカレーでした。



屋外で仲間と食べる食事は格別だったようで、たくさんの笑顔が溢れていました。その後は入浴を済ませ、夜はキャンプファイヤーを実施しました。屋外で爽やかな夜風に吹かれながら、炎の



前で代表の生徒が誓いを述べ、火を囲んで学年全体で団結を誓い、その後はダンス等で楽しみながら、互いの存在を感じ合うとともに仲を深めることができました。

屋内に戻ってからは、僅かな時間でしたが、各部屋等で仲間とおしゃべりをしたりして過ごすことができました。こうした機会は、泊を伴う教育活動なら



ではのものです。仲間との距離が一層近くなったようです。

食事の入浴も、密を避けるために、工夫や配慮が必要でした。普段家庭では、一人でゆっくりと入浴すると思いますが、スケジュールの関係で、15分に入ることになりました。多くの人数で行動するためには、それこそ思いやりや工夫が必要です。様々な場面に応じて折り合いをつけることができるようにすることも大切です。予定通りの時間で行動することも大切です。



二日目は、起床後、朝のつどい、朝食、館内清掃を行い、その後にオリエンテーリングを行いました。各班で協力しながらチェックポイントを回り、ゴールを目指しました。迷う班や、意見がなかなかまとまらない班もありましたが、それらを解決することも貴重な経験です。

午後は、クラス単位で2つのグループに分かれてスプーンづくりをしました。普段何気なく使っているものですが、いざ自分でつくるとなるとなかなか大変です。ものづくりの面白さや大変さを知るとともに、それぞれの道具がいかにか機能的な形となっているかについても、知ることができました。

二日間を通して、自然教室ならではの野外や宿泊を通した、有意義な活動ができました。